

trivia ■皮膚科のトリビア■ 173

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞き出したことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

クレアチニンは2を超える と加速度的に上昇する

第7回横浜中部腎疾患ネットワークから(平成30年8月30日)

血清中クレアチニンは、GFRが120から80に低下しても大きく変動しない。GFRが60、クレアチニンが2を超えると急速に上昇(腎機能が悪化)する。過去のデータから、クレアチニンが2以上の患者で適切な治療を行わないと、4年後には3/4の患者が、12年後にはすべての患者が透析治療に移行した。「最近では投薬の際にもeGFRを念頭に置くことが多い。感染症やアレルギーなどで採血する機会があるときも、クレアチニンだけはみておいたほうがよさそうだ」。

テルビナフィンに低感受性の *T. rubrum*の出現

第62回日本医真菌学会総会から(平成30年9月8日)

50歳代の男性。10数年来の足白癬で抗真菌薬外用を行っている。足背の体部白癬および足爪白癬のためテルビナフィン125mg/日の内服を行ったが、3カ月目に症状が増悪した。真菌培養の結果は*Trichophyton rubrum*で、テルビナフィンに対して低感受性(MIC>128μg/ml)を示した。ルリコナゾールの外用で症状は改善した。「白癬菌でも薬剤耐性が問題になっていくのだろうか。他施設の報告によれば、テル

ビナフィン感受性低下は、エルゴステロールの合成に関与するスクアレンエポキシダーゼの遺伝子変異により、スクアレンエポキシダーゼ阻害薬の感受性喪失が原因とのこと。ちなみに、三環系抗うつ薬は内服のテルビナフィンと併用すると血中濃度が3～4倍に上昇し、めまい、倦怠感などの副作用が現れることが知られている。またこの相互作用は長期間持続するという特徴があるそうだ」。

血液培養でカンジダが検出されたら 全例眼科にコンサルトすること

第62回日本医真菌学会総会から(平成30年9月8日)

カンジダ血症では、適正な抗菌薬投与が行われていなかった時期にはカンジダ性眼内炎が1/4の患者に生じた。カンジダ血症のもっとも重要な合併症であるため、全例眼科受診が必要である。カンジダ性眼内炎は中心静脈留置針が感染源になることが多い。まず網脈絡膜炎が生じ、さらには硝子体内に浸潤する。失明のリスクが高いため早期診断・早期治療が必要である。

「重要なことは、まず中心静脈留置針を抜去すること。他の深在性真菌症と同様に、免疫抑制状態、とくに白血球減少がリスクになるとのこと。覚えておこう」。

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」。そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス:

<http://www.asai-hifuka.com>

带状疱疹後神経痛の残存率は3カ月で8人に1人

某メーカー講演会から(平成30年11月4日)

ファミシクロビルで治療を行った患者の神経痛残存率調査(FAMILIAR study)の結果のおさらい。2010年～2012年の調査で、登録は約700人。半数の患者で痛みが消失するのに要する日数は全年齢平均で21日で、50歳以下だと16日、50歳以上だと23日。皮膚病変が軽微だと15日、軽度だと18日、中等度で26日、重症だと66日。疼痛残存率は30日で31.6%、60日で19.0%、90日で12.4%、180日で7.1%、360日で4.0%。3カ月で8人に1人という結果。

「なるほど。日ごろの患者指導に使えるデータだ。現在アメナメビルで同様の疼痛残存率調査が行われているが、違いが出るだろうか。最近は軽症患者が以前より多いような気がするので、比較の際には注意が必要だろう」。

DIHSの治療におけるステロイド内服治療は10日で中止する

第48回日本皮膚免疫アレルギー学会から(平成30年11月17日)

DIHSの治療経験からの報告。DIHSの病態は薬剤アレルギーとそれに引き続くHHV-6、CMVの活性化である。DIHS早期にはHHV-6のレセプターであるCD134+の

T細胞が増加する。早期のステロイド投与はこのT細胞の増殖を抑える。また、sIL-2が高いとHHV-6の増殖が抑制されるのでウイルス血症になりにくい。DIHSの予後はそのあとのCMVによって決まることが多く、後半はステロイド内服が負に働く可能性が高い。これらの理由から、DIHS発症後7日以内にプレドニソロンを1 mg/kg/日で10日間使って速やかに中止するのがよい。「多くの経験からえた指針で、病態からしても納得できる。sIL-2、TARCも指標になるようだ。覚えておこう」。

トロポミオシンによるエビアレルギーの特徴

第48回日本皮膚免疫アレルギー学会から(平成30年11月17日)

甲殻類によるアレルギーの主要なコンポーネントの1つであるトロポミオシンについての検索。30人のエビアレルギー患者のうち、4人でトロポミオシンの特異的IgEが陽性であった。陽性例は全例ダニ、アニサキスの特異的が陽性で、3人にアトピー性皮膚炎があった。1つのサブグループと考えてよさそうである。

「甲殻類とダニの交差反応はなんとなく想像できるが、アニサキスも関連するとは思わなかった。問診や検査項目の選択に役に立ちそうだ」。